

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	総合政策研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ (学部) コースワークとリサーチワークのバランス (院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供 (学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容 (学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供 (院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供 (専院)

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学部4学科体制と連動し、総合政策という本研究科の教育目標を実現するため、大学院の授業科目体系の再編成を2010年度中に検討し、2011年度より新しいカリキュラムへ移行する。	→学部4学科と連動した大学院授業科目の再編成・再体系化の有無。	A	A	A	A	/
2. 上記1で掲げた目標の中で、大学院の授業科目体系に、英語修了コース、教職科目、EU連携コース科目を適宜、配置する。	→英語修了コース、教職科目、EU連携コース科目の再編・配置の有無。	A	B	B	B	/
3. 上記1で掲げた目標の中で、総合政策の研究・論文執筆に必要な基礎的方法論および理論を習得するための授業科目を、適宜、配置する。	→総合政策の研究・論文執筆に必要な基礎的方法論および理論を習得するための授業科目の配置の有無および履修者数。	A	A	A	A	/
4. 上記1で掲げた目標の中で、リサーチ・プロジェクト(課題研究)を、本来の研究プロジェクトのもと、複数教員・複数院生が参加する形で行われるよう、授業科目としての履修および運営方法を再考する。	→リサーチ・プロジェクト(課題研究)の運営方法の変更の有無。	A	A	A	A	/
5. 上記1で掲げた目標の中で、大学院の授業体系の中に新たに「災害復興コース」を設置する。また、2013年度より一級建築士の受験資格となるインターンシップの科目を設置する。	→「災害復興コース」の登録者数、および一級建築士インターンシップの登録者数。	B	C	B	B	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	2011年度入学生より、学部4学科に接続する6領域から主領域一つを選択する新しいカリキュラムがスタートし、2012年度には、最初の博士前期課程修了者を送り出した。新たな課題として授業科目数の問題が浮かび上がった。在籍者数に比べ科目数が多いため、不開講の科目も多い。6領域それぞれに必要な科目とのバランスを考えて、2013年度中に検討する予定である。
目標2	英語修了コース、教職課程ともに運用中である。EU連携コースはまだ運用していない。教職課程は開設以来、修了者が1人しかおらず、ニーズを分析する必要がある。
目標3	2011年度のカリキュラム改訂をうけ、「政策基礎」および「政策研究」を必修科目として開講している。前期課程のすべての大学院生は、主領域科目とともにこれらの科目を履修し、修士論文執筆に必要な基礎的方法論および理論を修得する。
目標4	リサーチ・プロジェクトは2012年度春学期に4テーマ、秋学期には1テーマ開講された。
目標5	建築士インターンシップ科目には2012年度に3名が登録した。災害復興コースはニーズ分析を行っているが、まだ結果が出ていないのでまだ開設していないが、災害復興や防災を研究テーマとしている大学院生もおり、指導教員もいるため、できるだけ早い時期に開設することを計画している。
備考	